

# 政策科学シンポジウム 新時代「令和」を展望

## 平成の経済、政策を検証

大学院経済学研究所(遠山浩研究科長)が主催する政策科学シンポジウム「日本経済の軌跡と展望―平成から令和へ」の2教員が、平成の経



平成の日本経済を総括したパネル討論

済、政策を見つめ直し、新時代「令和」の展望について縦横に話し合っ

た。基調講演した大正大学地域創生学部長の小峰隆夫氏(日本経済研究センター理事)はバブル崩壊以後の平成時代の経済状況、政策の意義や問題点、課題について具体的に論じた。

バブル崩壊と不良債権、デフレ進行、リーマン・ショック、米困トラ

ンク、米困トラ。長谷川氏は「日本を取り巻く金融、政治環境がグローバルに変化してきている。米中の中で日本が果たすべき役割は大きい」と令和時代の展望を話す。

また、日本経済と政策に関し、国民一般と専門家の認識のギャップが大きいことを調査を基に説明した。消費税への評価は専門家の「公平で適切」に対し、一般は「逆

転」と訴えた。パネル討論は鈴木将寛教授が司会・進行役を務め、みずほ総研チーフエコノミストの長谷川克之氏、田中隆之、中村吉明両教授が短く講演した。小峰氏を交えて議論した。

田中教授は平成時代を振り返り「低成長、物価低迷、官民ともに負債が拡大、経済構造が変化し」と指摘。中村教授は「日本企業の国際競争力の

## 産業と社会の変革考察

### 大学院公開講座

大学院公開講座PAR「成熟社会における企業・地域が育むイノベーション」が11月8日から29日まで、計4回にわたって神田キャンパスで開かれた。経済学研究所の企画。AI(人工知能)やビッグデータを活用するビジネスで社会生活に大きな影響が起きている。講座では、産業と社

会の変革を考察する時事テーマとあって、毎回多くの受講者が参加し、意見交換も活発に行われた。5教員が講師を務めた。初回の冒頭、遠山浩研究科長がインベシ

ョンの捉え方について説明。社会が成熟するとともに需要は高度化、多様化し、市場は細分化して

進的「景気に悪影響」。将来必要となる消費税は専門家が「15〜20%」に対し一般は「10%」。小峰氏は「政治家は世論に流されやすく、政策を誤ることもある。国民にきちんと理解してもらいたい」と訴えた。

パネル討論は鈴木将寛教授が司会・進行役を務め、みずほ総研チーフエコノミストの長谷川克之氏、田中隆之、中村吉明両教授が短く講演した。小峰氏を交えて議論した。

田中教授は平成時代を振り返り「低成長、物価低迷、官民ともに負債が拡大、経済構造が変化し」と指摘。中村教授は「日本企業の国際競争力の

低下をさまざまなデータから明らかにした。「日本全体に受容性がなくなっている。新しい産業政策が必要な時代になっていく」と提言した。

鈴木教授が「低迷した30年の原因は」と問いか

けると、「難しい問題に直面したが、対応が遅れた」と小峰氏が話した。田中教授は「平成の前半は不良債権処理の先送りなど政策の失敗。後半は高齢化・人口減少という必然の部分が大きい」と

解説。中村教授は「多くの政策の失敗。日本の国民性として失敗に寛容でなく、政策のトライアル&エラーができないことも影響している」と論じた。

## 韓国檀国大と合同研究会

### 社研と経営研

国際交流協定の韓国檀国大学と専修大学社会科学研究所(宮寄晃臣所長)、経営研究所(小沢一郎所長)との合同研究会が11月9日、神田キャンパスで開催された。

統一テーマは「日本と韓国における経済デモクラシー」。檀国大からチエ・チャンファン教授、ジョン・スジョン教授、

## 社研70周年 講演会開催 &書籍刊行

社会科学研究所(社研)宮寄晃臣所長は本年

度、創立70周年を迎えた。これを記念して12月に講演会、来年1月に公開シンポジウムを開催する。また、記念の書籍を刊行する。

1949年4月、専修大学の新制大学移行と同時に社会科学研究所が誕生した。「経済学及びこれに関する諸科学の総合

研究を行うこと」を目的とし、特定課題に基づき実施、成果を所報で発信し、総合研究、実態調査、している。

「日本のイノベーション能力は高い」と語った李助教は、その上で李助教は、世界の特許出願と科学論文発表の件数を都市別に見ると、東京・横浜が世界でトップであり、国際特許出願件数では日本は世界第2位などの状況を説明。「日本のグローバル競争力は低下している」と言われているが、実は日本のイノベーション能力は高い」と語った。



専修大学経済学部 李助教

この後、李春霞助教が、特許の出願・登録件数など膨大な統計データを分析した結果をもとに、日本企業のイノベーション

出席した両大学のメンバー



研究会が11月9日、神田キャンパスで開催された。

統一テーマは「日本と韓国における経済デモクラシー」。檀国大からチエ・チャンファン教授、

ジョン・スジョン教授、

合同研究会は、研究者間の積極的な交流を目指し、2009年から始まった。現在、隔年で両大から4教授が参加した。

社会科学研究所70周年記念講演会(第1部)70年史刊行記念会(第2部)

社研の所員、参加によるリレー講演や宮寄所長の記念講演「グローバル資本主義の進展と社研調査研究活動」など。

▽日時 11月25日(土) 13時〜16時30分  
▽生田キャンパス3号館「蒼翼の間」  
▽社会科学研究所 044-911-1089  
Eメール shakem@isc.senshu-u.ac.jp

## 最終講義のご案内

本年度末で12教員が定年退職されます。最終講義を行うのは次の方です。どなたでも受講できます。

伊吹克己 文学部教授	1月11日(土) 13時05分	神田102教室
福島義和 文学部教授	1月17日(金) 14時50分	生田10214教室
近江吉明 文学部教授	2月15日(土) 16時	生田「蒼翼の間」

## 専修人の新刊



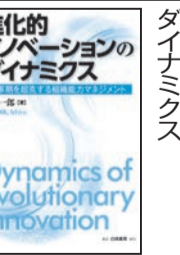
西周 現代語訳セレクション

菅原光共訳  
幕末から明治期に活躍した哲学者・西周が発明した数多くの学術用語には、我々は思考をめぐらすことすら難しい。「哲学の父」とも称される西周が我々に与え続けている学問上の恩恵は計り知れないのだが、その文章を読んだことがある現代人は多くはない。母国の偉大な哲学者の文章に触れることがないという、諸外国では珍しい現

状がここにはある。彼が著した古い文章は現代人には読解困難だし、「全集」は絶版となつて久しいのだから、それもやむを得ないことであらう。

日本思想に関心を持つ一般読者に向けてリーズナブルなテキストを提供する必要があるのではないかと、西周が著した文章をできるだけ平易な現代日本語に翻訳して出版するという本書の試みは、そのような問題意識に基づいたものである。(慶應義塾大学出版会・本体2500円十税)

著者(すがわら・ひかる) 法学部教授。日本政治思想史。



進化的イノベーションのダイナミクス  
小沢一郎著

組織の盛衰はなぜ起きるのか? 本書では、その一要因となる「進化的イノベーション」への対応の様相を切り口として、そのダイナミクスを解き明かしていく。そして、そこから見えるイノベーションのフェーズごとに、組織側の継続的顧客戦略策定のヒントをまとめる。さらに、こ

の戦略を実行可能とするために、組織を動かす組織能力の在り方とそのマネジメントへと議論を展開していく。

本書は研究書でありながら、その目的として実務家の皆様への貢献を挙げている。それは、著者自身が25年間の実務家経験を基に、研究と実務との橋渡しを願って執筆を続けたものだからである。(白桃書房・本体3545円十税)  
著者(おざわ・いちろう) 経営学部教授。経営戦略論、イノベーション論、経営組織論。